

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170103069		
法人名	株式会社ライフ敷島		
事業所名	グループホームみのりの家		
所在地	岐阜市野一色6丁目10番26号		
自己評価作成日	令和4年9月22日	評価結果市町村受理日	令和5年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170103069-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2170103069-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和4年10月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症の緩和のために、歩行訓練やカラオケを、毎日実施しており、定期的に生け花教室を実施しています。また、希望者には、有料になりますが、くもん学習療法を実施しています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、日々、利用者の下肢筋力の維持・向上に向けての歩行訓練や生活リハビリを取り入れながら、支援に努めている。人工透析が必要な利用者や精神疾患のある利用者、生活保護受給者の受け入れも行い、状態に合わせた介護、支援を行っている。看取りは行っていないが、協力医や訪問看護師と連携しながら、緊急時の対応について協議している。コロナ禍で面会方法を工夫し、感染予防対策をした上で、できる限り直接面会を実施している。代表者と管理者は、職員の働きやすい職場環境を整えており、定着率のよい事業所になっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、事務所に理念を掲げ、毎日、確認しながら仕事をしている。	理念である「ゆっくりと・・・いっしょに・・・たのしく・・・」を意識し、利用者のペースにあわせて日常生活動作の維持・向上につながるよう支援している。管理者と職員は、毎日、申し送り時に気づいたことを話し合い、情報の共有をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加しており、自治会の行事などに参加していたが、新型コロナの影響により、交流ができていない。	自治会に加入し、回覧板などで地域の情報を得ている。コロナ禍により、地域の行事は中止となっている。自治会老人会の案内が届いた際には、管理者が代表して出席し、地域からの問い合わせや見学の要望に応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的な発信は行っていないが、問い合わせや見学には積極的に対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響と、事業所の環境により、できていない。	運営推進会議は、行政や民生委員・家族と管理者などで開催していたが、現在は、新型コロナウイルス感染予防のため、開催していない。民生委員は毎月訪問があり、状況を話している。	運営推進会議の開催は難しい状況である。ホームの活動状況や利用者の状況を文書にて関係者に報告・意見を求めるなど、「書面開催」を検討し、議事録の作成、配布で利用者サービスの向上に活かされることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議は実施できていないが、随時、連絡は取っている。	市の担当者とは、電話などで空き情報も含め報告や連絡・相談をしている。新型コロナ最新情報の提供もあり、毎週PCR検査を実施している。生活保護受給者等の受け入れを行っており、定期的に情報を共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない方針ですが、徘徊の方もいるので、ご家族様との了承を得て、玄関の中扉の施錠をさせていただいています。ただし、外からは、ボタン一つで、簡単に解錠できます。	身体拘束をしないケアに取り組んでおり、職員は常に意識しながら支援をしている。管理者は、スピーチロックについても、グレーゾーンなどがあれば、その都度、注意を促しながら、職員と共に話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、外部の講習会への参加、報告会など実施し、職員への啓蒙を行っている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部の講習や研修会に参加したり、ミーティングの議題にしたりして、意思の疎通を図っている。また、必要と思われる入居者には、支援も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に全文を読み上げ、説明し、了承の上で、署名捺印してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望は、できるだけ聞くようにしていますが、できない場合は、その理由を説明し、納得してもらっている。	家族への電話連絡や、来所時に利用者の状態を報告する際には、話しやすい雰囲気を作りながら意見や要望を聞き、家族の意向を運営に反映させている。コロナ禍ではあるが、感染予防に努め、玄関先での直接面会を実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや引継ぎに参加し、職員の意見を聞き、運営に反映させている。	代表者と管理者は、日頃の申し送りの際に職員の意見や要望、提案を聞いている。有給休暇や勤務体制、資格取得の為の研修等、職員の希望を聞きながら、働きやすい職場環境作りに努めており、職員の定着率も高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスや処遇改善等加算など、いろいろと儲けていますが、給与自体は、それほど高ありません。でも、離職率は低いので、働きやすい職場になっているのだと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	有意義なものなら、有料・無料関係なく、外部の講習に参加してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に参加し、情報の交換など、仲良くさせていただいているGHもあります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	できる限り、本人から聞き取りを行っていますが、ご家族様からも追加の情報を得て、安心出来る関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や、入居時にご家族様の困っていること、不安に思っていることを聞き取り、解消できるように努めている。また、要望も、できる限り聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ご本人にとって一番必要なことを考え、今後のことも考えながら、支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と職員は、家族のような関係を築けていると思っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現状、なかなか面会に来て頂けないので、状況報告などを連絡し、入居者様との関係が途切れないように努め、一緒に支えていける関係を築いていけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナの影響で、普段通り面会や外出ができていない。面会は、短時間にしていただいて、玄関先で、少人数にしてもらい対応している。外出は、屋外で、人混みがない場合は、していただくこともある。	コロナ禍以前は家族の協力もあり、外出支援を行っていたが、現在は難しい。馴染みの場に行けない代わりにして、写真やテレビなどを見て回想法取り入れながら、記憶を繋いでいる。また、感染予防をした上で、直接面会を実施し、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、入居者同士の関係を把握し、孤立する入居者が出ないように、支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去し、契約が終了した後でも、相談があれば、支援させていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施設の体制など、無理な場合を除き、本人の希望をできる限り聞くようにしています。	職員は日頃の支援の中で、利用者と話をしながら思いや意向を把握するように努めている。さりげない眩きや表情を見落とさないよう心がけ、管理者と職員間で情報を共有し、利用者本位の支援実現に向けて取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報だけでなく、入居後に得た情報も、職員全員で共有し、支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人一人ができることを、職員全員で共有し、支援に生かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者、ケアマネ、管理者が検討し、作成したケアプランを、入居者、家族様に確認していただいている。	介護支援専門員が、担当職員や医師、他職種からの情報を得て、モニタリング結果を参考に介護計画を作成している。家族と再度話し合い、同意を得た上で決定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ごとに、時系列に沿った記録をし、保管している。また、引継ぎ時に、情報の共有を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人一人、状態が違うため、それぞれの状態にあった支援ができるように心がけている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年も、残念ながら自治会の夏祭りが開催されなかったですが、開催されれば、できる限り参加できるよう支援を行います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様の同意を得た上で、当ホームの主治医が、月2回の往診を行っている。状態急変時は、状態に合わせて、主治医や救急搬送など、職員が付き添い行っている。	契約時に、かかりつけ医や受診方法について説明している。協力医の指示で受診が必要な時は、職員が付き添っている。週3回、人工透析を受ける利用者の通院については、職員が準備し適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師、週1回の訪問を受け、体調管理をしてもらい、その情報と、普段の状態を主治医に報告し、適切な受診ができるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院した場合は、病院と連携し、早期の退院ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重篤化した場合の、施設としてできる範囲を、契約時に説明しており、その後のことは、主治医、病院、ご家族様と協議し決めている。	契約時に、重度化や終末期についての事業所の方針、看取りをしていないことを説明している。状態変化があった場合は、早い段階で、本人・家族、関係者で話し合い、医療機関や他施設など、より良い移転先が選択できるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な実施はできてないので、定期的に行うよう体制を整える。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な実施はできてないので、定期的に行うよう体制を整える。	事務所の電話近くに、緊急連絡網を掲示している。隣の住民とは、緊急時に協力を得られる関係ができている。昨年、行政からの補助金を活用して、屋外スロープを設置している。事業所独自に避難訓練を実施し、消防署に報告をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人にあった言葉かけを、職員全員が心がけている。	管理者は日頃から、利用者の状態に合わせた接し方、言葉遣いについて職員にアドバイスをしている。排泄介助方法についても、羞恥心に配慮ながら、自尊心を損ねることなく支援するよう心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常作業やパズルなどを行ってもらっているが、無理強いせず、本人のできること、やりたいことをやっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的なスケジュールは決まっていますが、本人の状態に合わせ、臨機応変に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方は、できる限り化粧をしてもらい、定期的に毛染めをしてもらっている。男性の方は、髭剃りをしてもらっている。また、定期的に美容師に来てもらい、カットをもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じものを食べ、用意や片付けなどを、できる方には手伝ってもらっている。	調理専門の職員が感染予防に努めながら、手作り食を提供している。利用者もテーブル拭きや片付けなど出来る事を職員と一緒にやっている。利用者がマイペースで自己摂取できるよう環境を整え、介助と見守りで支援し、職員も同じテーブルで食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量などを記録し、一人一人にあった、水分補給や補助食品の摂取をもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、それぞれに合わせた口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつから紙パンツ、布パンツへ移行できるよう、排せつの自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表から、利用者の排泄パターンを把握し、声かけや誘導でトイレでの排泄を支援している。布パンツの利用者もあり、利用者の状態に合わせた適切な排泄用品を使用することで、家族の経済的負担の軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排せつの有無を時系列でチェック、記録し、一人一人に合わせた支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の体制上、毎日の入浴は困難なため、入浴日を決めているが、職員が一人付き添い、入浴してもらっている。	入浴日は、火・金曜日の支援を基本としている。職員は、利用者の残存機能に応じて、洗身・洗髪、更衣の介助をしながら、利用者とのコミュニケーションを図っている。重度の人はシャワーチェアを利用し、二人介助にて支援している。利用者の希望で入浴剤を使用する場合もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の体調を見て、昼寝や運動してもらったり、それぞれにあった支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者別に、1回ごとに分けてあり、職員は、薬の目的や副作用を理解し、服薬を支援している。体調が変化した場合は、主治医に相談し、薬の変更もしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味のことや、作業をしてもらったり、カラオケをしてもらったり、それぞれ自由に過ごしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人での外出は、行っておらず、職員又はご家族様等の付き添いでの外出は行っている。	コロナ禍により、日常的な外出の機会は減っている。利用者の下肢筋力の低下予防の為に、広い廊下で車椅子に重りを積んで、職員が付き添って歩行訓練をするなど、今後の外出に備えている。カラオケなどの室内レクリエーションを取り入れて、気分転換を図っている。	



岐阜県 グループホームみのりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理ができる方は持ってもらいますが、ほとんどの方は、必要な物を立て替えて購入し、利用料と一緒に請求させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は、自由にできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	節句などの飾り物や、生け花教室で活けた生花などを飾り、季節感を出せるように心がけている。	ユニット間で交流もできる広い居間には、ゆったりとしたソファがあり、利用者が思い思いの場所で落ち着いて過ごせるに空間になっている。壁には写真や作品の掲示がしてあり、要所には花を飾っている。対面キッチンからは、調理中の匂いや職員の声が聞こえ生活感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1階は、スペースの関係で、居室以外で一人になれる空間がないので、必要なときは、和室を使用している。 2階は、間取りの関係上、玄関部分がリビングの一部になっているため、テレビ前のスペースに一人になれる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から、家具を持ち込んでいただく前提で、契約していますが、持ち込む方はほとんどいません。畳が良い方は、畳を使用してもらっている。	居室の入り口に表札を掛け、ベッドや家具の持ち込みができ、利用者と家族が相談している。畳の部屋を選択することもできる。写真や花などを飾り、居心地よく過ごせる居室になっている。季節ごとの衣類の入れ替えは、担当職員が行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設はバリアフリーになっているので、車いすにて移動できるようになっている。		